JICA 教師海外研修 授業実践報告書

Zambia

学校名：神津島村立神津小学校

氏名： 平岡 朋子

[担当教科：算数少人数（3～6 年）]

- 実践教科等： 社会科
- 時間数 ： 9 時間
- 対象児童 ： 小学 6 年生
- 対象人数 ： 21 人

1 単元名

「世界とつながろう！ザンビアから考える国際協力」

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（国立教育政策研究所が例として示したもの）

○日本と世界各国が相互依存の関係にあり自分たちの生活が世界の多くの国に支えられていることや、貧困や環境の問題が自分たちにも関わりがあることに気付き、国際協力の必要性を理解する。

【つながりを尊重する態度】

○相互依存ゲームやフォトランゲージ、マップ作り等の体験的な活動や話し合い活動を通して、国際的な諸問題を自分事としてとらえて考えをもったり、今後の自分の行動を考えたりする。

【進んで参加する態度】

○国際協力に関わる日本の人々の活動の様子や思いに触れることを通して、日本が世界において重要な役割を果たしていること、今後も世界の人々と協力してその役割を果たしていくことが大切であることを考える。 【他者と協力する態度】

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点（国立教育政策研究所・2014）

1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る

○「国際協力とはどんなことか」という本単元を貫く学習課題を設定する。そして、1時間ごとに、国際協力が必要な理由、国際的な問題の事例、問題解決のための取組の様子等について課題を解決する流れで授業を構成する。最後に「国際協力で大切なこと」と「自分が国際協力に関わるとしたらどんな組織でどんな活動をしたいか」という 2 つの課題について考え交流することで、一人一人が国際協力についての自分の考えをまとめられるようにする。

2 児童の多様な考えを引き出す

○写真を読み取る、絵カードを並べ替える、ランキングを作成する等、1 つの答えがあるわけではなく、児童が多様に考えられるような活動を取り入れる。また、グループで話し合う場を多く設定し、互いの考えを交流することで個々の考えも広げられるようにする。

3 考えを深めるために対話のある活動を導入する

○グループで自分の考えを伝え合う活動を多く取り入れる。また、グループで活動した後に全体で考えを交流する場も設定し、様々な考えに触れることで自分の考えを深められるようにする。

4 考えるための教材を見極めて提供する

○写真や具体的な数値から世界的な問題について考えるプレゼンテーション資料、世界と日本の相互依存関係について考えるためのカードゲーム、貧困や就学困難の問題に気付き、考えるための写真、貧困が生む負の連鎖を考えるためのカード、国際協力活動を実践している人の様子や思いが分かる映像や写真を精選して提示することで、実感をもって考えられるようにする。

5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する

○カードゲームやフォトランゲージの活動を通して、世界と日本のつながり、世界的な問題に気付けるようにする。

○国際協力で大切なことのランキングを考え、交流する場面では、「国連の会議のように考えてみよう」と投げかけ、ロの字形の座席にすることで雰囲気作りをする。また、6 つの選択肢から上位 3 つを選ぶ活動を通して、自分の考えを明確にし、多くの友達の多様な考えを受け入れて考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

6 児童が学び方を振り返り自覚する機会を提供する

○毎時間、学習シートを活用して学習課題についての自分の考えや学習感想を書くことで、自らの学びを振り返りながら更新することができるようにする。

7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る

〇本単元で扱う課題は、「1 つの答えがあるわけではなく、一人一人が事実を知り考えることが大切」ということが伝わるように授業を進める。また、安心して考えを出したり、認め合ったりできるような雰囲気づくりにも配慮していく。

4 単元の指導について

（1）教材観

第6学年 社会科 目標（2）「（前略）国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であると自覚できるようにする。」 内容（3）イ「我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」

本単元は上記に基づき設定された社会科の単元として構成している。ここでは、様々な国際的な諸問題を認識するとともに、その解決に向けた取組として国際連合の働きやNGO、青年海外協力隊の活動を、いくつかの事例をもとに理解することが大きなねらいとなっている。

これらのねらいをふまえた上で、海外研修を経験したからこそ提供できる資料を効果的に活用し、国際協力活動を行う人々の思いや信念をも伝えながら国際協力のあり方について考えさせていきたい。

（2）児童生徒観

多くの児童が生まれ、育ちとも神津島であり、島外に出る機会も少なく、社会的事象に関する知識や経験が乏しい。世界の出来事に関しても興味・関心はあっても「遠い場所のことで自分たちには関係ない」という感覚でいる児童が多い。本単元第１時に「①国際協力とは何か」「②日本人が国際協力をしている理由」についての考えを書かせた。それぞれ、「①困っている国の人を助けること、募金や寄付をすること」、「②協力して仲良くなるため、それぞれの国を豊かにするため」というもので、「国際協力」という言葉から受ける漠然とした印象からくる考えが多かった。

本単元の学習を通して、世界と自分達がつながっていることに気付き、国際協力を身近に感じさせたい。そして、多くの日本人の活躍と日本が果たしている役割や、世界の人々と協力して活動することの大切さを、実感をともなって理解できるように指導を進めたい。

（3）指導観

本単元では、学習のはじめに「世界の国と日本のつながりや国際協力の活動について考えよう」という大きな課題を設定し、毎時間の学びを積み重ねて考えを深めさせる。一つ一つの学習活動においては、インパクトのある写真やデータ、映像資料、体験活動等を通して世界の国々と日本のつながりや国際的な諸問題を自分に関係のあることとしてとらえることができるように展開していく。

また、個々がもった考えを交流し、広げ、深めさせる場も多く設定する。自由に相手を選びペアで、班で、全体でと、より効果的に行えるよう形態も工夫し、自分が気付かなかった視点を友達から得て学びを深めていく。

全時間を通して、「支援」「援助」という「してあげている」という意味合いを強く感じさせる言葉でなく、「協力」という言葉を使ったり、「win-winの関係」「相手国のownershipを大切にする考え方」を随所で伝えたりし、「世界と日本の相互依存関係に基づく双方向的な活動」であることが意識付けられるよう配慮する。

5 評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
評価規準	・開発途上国の実態や国際的な諸問題、我が国の国際協力の様子に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	・開発途上国と日本の相互依存関係に気付き、国際社会において我が国が果たすべき役割を考え、自らの国際協力についての考えを深めている。	・映像や写真資料等を活用して日本人の国際協力活動に取り組む様子や思い、願いなどについて読み取ったり、カードにまとめたりしている。	・我が国の国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合等諸機関の働きや我が国の役割の重要性について理解している。
評価方法	発言・活動の様子・学習シートの記述			

６ 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	ザンビアってどんな国？	・生活経験やテレビのニュース等からの知識をもとに国際協力についての自分の考えを認識する。 ・ザンビアの国の様子を知る	・国際協力とは、どんなことか、日本が国際協力をしているのはなぜかについて初めの考えを書く。 ・地図、写真等の資料からザンビアの国の位置、社会、文化、人々の生活の様子について興味を高める。
2	世界と日本のつながり □	日本と世界の国々のつながりを理解する。	・写真やデータ等のプレゼン資料をもとに開発途上国の現状やかかえる問題を知る。 ・相互依存神経衰弱ゲームを行い、身の回りの多くのものが世界の様々な国からきていることに気付く。
3		途上国の現状としてザンビアなどの国の様子を知り、日本との共通点・相違点に気付く。	・ザンビアやその他の途上国の学校や農村の様子の写真を使ってフォトランゲージを行い、日本との共通点・相違点に気付き、話し合う。
4	世界の課題と解決のための取組	途上国の社会・教育等の課題に気付き、「負の連鎖」を断ち切るためにどんな協力活動が必要かを考える。	・平均寿命、未就学児童数、識字率等のデータから、途上国の貧困や就学困難の実態を知る。 ・薬と毒のラベルの例を用いた体験を通して、読み書きができないことによって起こる問題に気付く。 ・「負の連鎖」ワークを通してなぜ貧困の連鎖が起こるか、どうすれば抜け出せるかを考える。
5		世界の様々な問題を知るとともに、その解決に向けた様々な組織や取組があることを理解し、国際協力の必要性について考える。	・貧困、戦争・紛争、環境問題、感染症等世界が抱える問題とその解決のための国際機関、支援の形態等について理解する。 （NGO、国際連合、ODA 等）
6	世界で活躍する日本の人々	ザンビアで協力活動をしている人の活動の様子、やりがい、国際協力についての考え等を理解する。	・写真、映像資料等からザンビアで協力活動を行っている人の活動内容、思い等について知る。（小学校教育：服部隊員、農業・栄養指導：山本隊員、小野調整員）
7		ザンビアで協力活動をしている人の活動の様子、やりがい、国際協力についての考え等を理解する。	・写真、映像資料等からザンビアで協力活動を行っている人の活動内容、思い等について知る。（感染症研究：高田教授、バナナペーパーの会社：ワンプラネット・カフェ）
8		日本人がザンビアだけでなく、世界の様々な国、地域で多様な分野の活動を展開し、成果を挙げていることを知り、考えをもつ。	・「SATREPS」の資料から、世界各国で国際協力活動を行う日本人の活動内容を「データカード」にまとめ、世界地図に貼付して「国際協力地図」を作成する。 ・世界の課題解決に取り組む日本人の活動について気付いたことや思ったことを交流する。
9	国際協力について考えよう	国際協力についての自分の考えをもつ。	・「国際協力で大切なことは何か」について6項目中 1～3 位までのンキングをつけ、その理由を話し合う。 ・自分が国際協力に携わるとしたらどのような組織でどのような活動をするかを考え、交流する。 ・学習で学んだこと、強く感じたことについて書く。

7 授業事例の紹介

小単元名【世界で活躍する日本の人々】

（1） 指導案

（ア）実施日時 12 月 14 日（木）第 3 限

（イ）実施会場 6 年 1 組教室

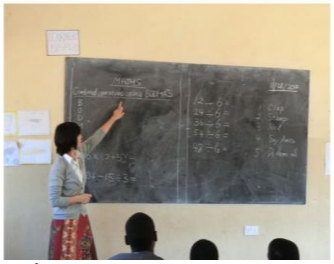
（ウ）本時の目標

・写真や映像の資料や話し合いから、ザンビアで協力活動をしている人の活動の様子、やりがいや共に活動するザンビアの人々の思いについて読み取る。【観察・資料活用の技能】

（エ）指導のポイント

・VTR をただ観るだけでなく、協力活動をしている人や共に活動するザンビアの人の思いについて想像し、交流する場を設定する。この活動を通して、「なぜこのような活動を行っているのか」「相手国であるザンビアの人はどう受け止めているのか」という視点ももたせる。その上で協力活動をしている人の実際の思いや願い、メッセージの部分を見せることで、より実感をもって同じ日本人の活躍を印象深く受け止めることができると考えた。

（オ）本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価（評価規準・評価方法）
導入 5分	○前時を想起させ、本時の内容をつかむとともに本時で扱う3人の名前、仕事内容を簡単に紹介する。	1 前時までに学習したザンビアの国が抱える問題（貧困・学校の先生が少ないなど）を想起する。 2 写真から3人の活動の内容や様子を読み取ったり予想したりする。	一斉	・学校教育の質の向上、農村の生活改善で活動する日本人を紹介することへとつなげる。 ・活動内容が分かりやすい写真を提示する	
	ザンビアで国際協力をしている日本人の活動の様子や思いを調べよう。				
展開 30分	○国際協力活動の具体的な様子を伝え、活動する人の思い、活動が人々に与える影響について考えさせる。 ○交流を通して、自分が気付かなかった視点からの思いや影響等について考えをを広げ、深めさせる。 ○3人のインタビュービデオを見せ、活動を行う理由や信念等にも気付かせる。	3 学校教育で活動する服部さん、農村の栄養指導等で活動する山本さん・小野さんのプレゼンテーション資料を見る。 村の学校で算数を教えています。  4 プレゼンテーション資料から想像できることを書き、交流する。 ①服部隊員、山本隊員、小野さんの仕事をする思い ②ザンビアの児童、農村で共に活動するザンビアの人たちの思い 5 VTRで3人の仕事についての思いや日本の児童達へのメッセージの部分を観る。	一斉 個人 グループ 一斉	・VTRでは分からないことについての情報を提供したり、疑問に答えたりする。 ・ザンビアの児童の学習への思いや夢について写真を提示しながら補足しながら見せる ・ザンビアの人が自分たちでやっていけるようにすること、持続的に活動が続くようにと考えて行われていることを補足しながら見せる。 ・3人の思いやメッセージが効果的に伝わるようにVTRを編集しておく。 ・小野さんの言葉を想起させ、丸森町プロジェクトは日本とザンビアのwin-winの関係をつくっていることを伝え、一方的にしてあげるだけではないことを印象づける。	【ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度】 ◆国際協力に関わる日本の人々の活動の様子や思いを調べ、日本が世界において重要な役割を果たしていること、今後も世界の人々と協力してその役割を果たしていくことが大切であると考えることができる。 【社会科】 ◆写真や映像等の資料、交流から3人の活動の様子、やりがい等の思いを、活動している人やザンビアの人の立場を考えながら読み取っている。
まとめ 5分	○本時の学びから考えたことをまとめる。	6 本時の感想を書く。	個人		

（2）授業の振り返り

【成果】

・現地で撮影した写真、取材したインタビュー映像を、学習させたいことが効果的に伝わるよう精選して用いたことや、写真や映像だけでは分からない情報についても指導者が補足説明したことで、児童が活動の様子を具体的にイメージしたり、現実味をもって学んだりすることができた。

・国際協力の活動において大切である「現地の方の自立的・自発的な活動を促すこと」「持続的に活動を行うこと」「双方にとっての利益がある win-win の関係であること」を具体的な事例とともに伝えたことは効果的であった。その意味をしっかりとらえて国際協力についての考えをもてた児童がいた。

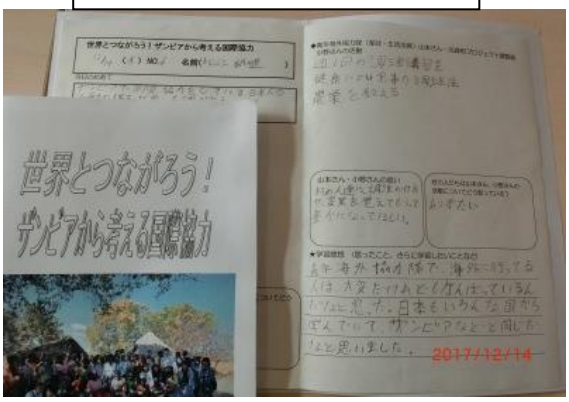
・現地で活動する人の思い、共に活動するザンビアの人の思いについて交流する場を設定したことにより、活動の意義や成果についてもより深く考えることにつながった。

【課題】

・単元の初めに開発教育で身に付けさせたい資質・能力の視点を、児童に分かる言葉で提示し、理解させた上で学習を展開するとよい。そして、学習活動に応じて、どの視点に関連した活動や資料なのかを助言し意識付けていくと、児童自身にとって学習の意義が明確になり、資質・能力を高めることにつながると考えられる。（学校長指導講評から）

（3）使用教材

第 1～9 時：
毎時間記入し、綴りにした学習シート



第 4 時：
読めない文字で表記されたボトルに入れた 3 種類の水を飲む体験

第 6 時：
青年海外協力隊の活動についてのプレゼンテーション資料

第 8 時：
日本人国際協力地図

第 7 時：
バナナペーパーで作られたファイル、メモ用紙、ペーパークラフトの紹介

（4）参考資料等

・『国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～』（独立行政法人国際協力機構　広報室）
・『どうなってるの？世界と日本』（独立行政法人国際協力機構　広報室）
・『地球のために、未来のために　SATREPS』（国立研究開発法人　科学技術振興機構　他）
・株式会社ワンプラネット・カフェ　ホームページ 『One Planet Café』 oneplanetocafe.com
・『新編　新しい社会 6 下　教師用指導書指導編』（東京書籍）

8 単元を通した児童生徒の反応/変化（児童の学習感想から）

①世界の国々と日本のつながりを理解できた。

・同じ世界に住んでいるし、同じ人間だから日本も助けてもらったから他の国も助けないといけない。

・自分たちが平和に暮らせているのは世界の人々のおかげだなあと思ったので、恩返しをしなくちゃいけないと感じた。自分たちだけが平和に暮らすのではなく、世界国と協力し、助け合って生きていかなきゃならないんだと思った。

②国際協力のあり方についての考えを深めることができた。

・この学習で「国際協力」とは、ただお金や物を寄付するだけではなく、たくさんの人が協力してやっと国際協力になるんだと分かりました。

・その国に行き、技術を伝えたり、その国の人々と一緒にしたりすること。手紙などで渡しても言葉のかべがあるから、一緒にすることが国際協力だと思う。

・青年海外協力隊などが勉強を教えたり、農業のアドバイスをしたりしてザンビアの人たちが自分たちでできるようにすること

③国際協力が双方にとって「win-win」の関係にある活動であることに気付いた。

・青年海外協力隊で海外に行っている人は大変だけれどもがんばっているんだなと思った。日本もいろんな国から学んでいてザンビアなどと同じだなと思った。

④国際協力を自分にも関係のある事としてとらえられるようになった。

・核兵器などの危険な物がなければ悲惨な戦争は起こらない。先進国だけよければいいじゃなくて開発途上国も両方とも豊かになって世界のみんなが幸せになるようにしたい。

・将来の夢は料理人。世界には貧しい人がたくさんいる。中国で生まれたから、将来中国に行って貧しい人に料理をつくってあげて、技術を教えてあげたいと思った。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

（1）授業計画＜PLAN＞

①世界の国と日本の相互依存性に気付き、国際協力の意義や必要性についての考えを深める。

②多くの日本人が様々な分野で国際協力に携わり、世界の人々と協働して諸問題の解決やよりよい国際社会の実現に努力していることを知り、自らの生活や今後の行動と関連させて考える。

（2）実践～成果・課題＜DO・CHECK＞

①世界の国と日本の相互依存性についての理解が深まり、国際協力の意義、必要性を多面的で双方向性のある取組としてとらえ、考えを深めることができた。

②総合的な学習の取組である「ドリームマップ」（今後の生き方の展望）や、卒業文集に掲載する将来の夢の作文とも関連させ、国際協力についての学びを「自分事」としてとらえられた子もいた。しかし、まだ実感に至らず、「そんなことが起こっている」「そういう人もいる」という理解にとどまった児童も少なからずいた。初めての ESD に関わる 9 時間の学習では、自然な実態と考えられる。

（3）改善＜ACTION＞

多岐・多様な内容にわたる ESD に関わる学習のねらいを1単元ですべておさえ、全ての児童に十分な資質・能力を育てることはできない。児童の発達段階、教科学習、既習事項や興味・関心の実態に応じて段階的に指導計画を立て、発展させながら指導を積み重ねることでその資質・能力と「地球市民」としての感覚を育てられるようにしていきたい。

10 教師海外研修に参加して

6 年生でこの単元を扱う度に、教科書資料を使って「知ったかぶりのうわべだけの指導」をしている気がしてならなかった。どうしても国際協力の現場の姿を知りたくて今回の研修に参加した。研修を共にした仲間達、現地で働く方々からの学びはかけがえのない財産となった。現地で強く感じた、「私は・日本は、世界とつながっている。→だから、世界のことは自分のこと」を「Think Globally, Act Locally」な学習の中で目の前の子供達と共有し、考え学び続けていきたい。